

## 平成23年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立天名小学校						NO.
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
学力保障	①少人数を生かして一人ひとりの学習状況を把握し、それに応じた個別指導をする。 【評価指標】CRTの通過率, 児童アンケート1・5 教職員アンケート1・3  ②「きく」「はなす」力を育成する。 【評価指標】児童アンケート2・3 ③反復練習などで, 学習内容の定着を図る。 【評価指標】児童アンケート5	①CRT等で一人一人の学習の定着状況の把握に取り組み, 平均10%通過率が向上した。また, 加配の配置もあって, TTによる学習指導により, 個々の児童へのきめ細かな指導を実施している。  ②児童アンケートより, 80%の児童が, 相手を見てきちんと聞けると答えている。教師アンケートでは100%指導している。 ③児童アンケートでは, 91%が課題や宿題に最後まで取り組んでいる。	①CRT等を通じて個別の学習状況を各担任が把握し, 未定着の内容について個別に指導することで定着状況が向上した。また, TTによる少人数指導により94%の児童が, 授業がよくわかると答えている。  ②「自分の思いや考えを伝え合う子どもをめざして」を研修主題として国語科を中心に子ども達の「聞く力」「話す力」の向上を図っている。また, 全校集会で発表することで話す力を高めている。 ③家庭, 学校が連携して毎日の宿題や朝の学習で基礎学力の定着を図っている。	①CRT等を活用して一人一人の学習状況の定着を把握して, 朝の学習や夏季休業中に補充学習をしていただいているのはありがたい。 ②聞く力, 話す力の向上を目指していることはありがたい。朝の交通指導で子ども達に「どうしたの」と尋ねると, 単語だけ返ってくる人が多い。人の前で話す機会を増やし, 経験を積ましたらいいと思う。ふれあいフェア等で一人一人が話す機会を設けたらどうか。 ③家庭との連携を密にして子ども達の学力向上に努めてもらいたい。	①CRT, 全国学力・学習状況調査等を活用し, 一人一人の学習状況の定着状況を把握し, 朝の学習や夏季休業中に個別指導をしていく。 ②聞く力, 話す力の向上は重要である。研修主題の「自分の思いや考えを伝え合う子どもをめざして」に沿って研修を深めあらゆる場で話す機会を設けていきたい。 ③学校, 家庭が連携して子ども一人一人の学力向上に努めたい。読書カードの充実, 宿題等で連携を取っていきたい。	
キャリア教育	①すずか夢工房等を活用し, 外部講師を招いた体験活動を実施する。 【評価指標】実施回数	①万引防止教室・観劇を各1回, 交通安全教室1回, 防犯教室1回, インターネット携帯電話の正しい使用方法1回, 鈴鹿夢工房2回, 租税教室1回を実施している。	①外部団体や地域の方に講師として来ていただき体験活動や話をしていただいた。また, 4年生の児童が「朝市」に積極的に参加し, 自分たちで作った物の販売等をして労働体験をしている。	①地域の人材を活用して子ども達に経験や, 活動をさせていただいているのは良い事だと思います。 ②学校で取り組んでいる「米づくり」と朝市を結び付けて体験を積ませたらどうか。	①地域の人材やすずか夢工房等を活用して, 働く人の思いや働くことの意義を伝えていきたい。 ②「米づくり」を通じてキャリア教育, 食育につなげていきたい。	
特別支援教育	①対象児童(10名)の指導計画を作成し, また, 支援計画の作成を推進する。 【評価指標】指導計画・支援計画の作成者数	①保護者・児童家庭支援室との協力により, 特別支援教育対象児10名の指導計画・支援計画を作成した。	①教育研究所から講師を招いて年間2回の支援会議を開催した。指導計画・支援計画は, 保護者や関係者の協力を得て, 内容の充実を図る必要がある。	①一人一人の子どもを大切にいただきありがたい。大分県豊後高田市の取組等を参考にして, 補充学習等に教師, 地域が関わっていったらどうか。	①一人一人の子どもを大切に教育を推進していきたい。また, 特別支援教育対象児童に継続した支援を行ってほしい。	
外国人児童生徒教育	①外国人の方も, かけがいのない社会の一員であることを理解させるため, SEFや地域の外国語を話せる人や外国文化等について指導していただける人に来ていただく。【評価指標】実施回数	①地域の人が1年生に2回, SEFが5・6年生に1回, 授業で外国語や外国文化等の指導をした。	①本校には外国人児童が在籍していないが, 子ども達に多文化共生の考え方をしっかりと指導していく必要がある。	①鈴鹿国際大学の学生に来校してもらい, 交流会等を持つことで多文化を理解できるようにしてはどうか。	②外国人児童は在籍していないが, 外国の人の考え方や習慣等を学ばせ, 多文化共生の考え方を児童に浸透させていきたい。	
生徒指導	①挨拶を習慣づける。 【評価指標】児童アンケート・保護者アンケート・教職員アンケート9 ②チャムで素早く行動できる。 【評価指標】児童アンケート・教職員アンケート10 ③生活習慣の定着を図る。 【評価指標】保護者アンケート10	①児童アンケートから86%が挨拶をしていると回答。保護者も99%が習慣づけていると回答。教職員100%指導。 ②チャムが鳴ったらすぐ教室に入っていると答えた児童は92%。 ③保護者の90%がつけさせている。	①児童アンケートでは挨拶をしていると言う児童が多いが, 実際には挨拶が根付いていない。地域, PTA等との連携が必要と考える。 ②チャム席を守る児童は増えてきているが, 継続して指導していく必要がある。 ③生活習慣の定着を図る必要があるが, 家庭との連携が重要である。	①アンケート結果では86%の児童が挨拶をしていると答えているが, そんなにしていないと思う。アンケートの取り方を工夫して実態把握をしたらどうか。 ②時間を守ったり, 朝ごはんをきちんと食べてくる等の生活習慣は保護者との連携が重要である。	①アンケートの取り方を工夫して, アンケート結果から指導方法を検証して, 挨拶の定着を図ってほしい。また, 学校と地域で連携して挨拶を定着させていきたい。 ②生活習慣の定着を家庭・地域と連携して推進していきたい。	
人権教育	①仲間づくり・途切れない指導に取り組む。 【評価指標】レポート研修・人権学習の開催回数 ②縦割り活動を通じて異学年交流を行う。 【評価指標】児童アンケート8 ③いじめアンケート結果をもとに教育相談を充実する。 【評価指標】いじめアンケートを基に相談時間の確保	①レポート研修年間2回, 人権教育の公開授業6回実施。 ②縦割り班活動について91%の児童が楽しいと回答。 ③いじめアンケートを生かし, 全児童に対して教育相談の時間を確保している(年間2回)。	①レポート研修で各クラスの状況は把握できているが, どのように関わって支援していくのかを共通理解していく必要がある。 ②少人数の学校であるので縦割り班の活動を生かしていく必要がある。 ③いじめアンケートだけでなく普段の様子を把握して指導していく必要がある。	①一人一人を大切に教育を推進していただきありがたい。少人数の学校なので教員みんなで子ども達の事を見てほしい。 ②縦割り班活動を生かして節度のある上下関係を構築してほしい。 ③「いじめ」なのか「いじわる」なのかの把握が難しいと思うが, 一番大切なのは家で子どもの話を聞いてやることではないか。	①レポート研修等で学校全体の子ども達の事を共通理解していくことは大切なので次年度も継続していきたい。 ②縦割り班活動を充実させていきたい。 ③いじめアンケート, 教育相談を継続して行い, いじめのない学校を目指したい。	
安全教育	①登下校の安全を確保する。 【評価指標】防犯教室の開催・登下校の見守り回数 ②自転車の乗り方等を指導する。 【評価指標】交通安全教室の開催・ヘルメットの着用率 ③学校での安全教育を推進する。 【評価指標】怪我の頻度	①万引防止教室を5・6年生で開催。 登下校の見守りは, 職員は年2回, 管理職は毎日, PTAはひと家族当たり年間4回。 ②交通安全教室は, PTAと安全協会, 防災安全課, 警察等と協力して開催。 ③学校では本年度, スポーツ振興センターへの申請は14件。	①万引防止教室・携帯インターネットの正しい使用方法・防犯教室等, 子ども達の安全安心を確保する取り組みを充実していく。 ②交通安全教室をPTA, 地域の安全協会の方と開催出来てよかった。 ③校内や登下校での安全教育を充実させていきたい。廊下を走らない等の地道な安全教育を充実させる。	①地域の皆さんが朝の登校時見守っていただいているので保護者として感謝しています。PTAも年間4回ですが協力していきたいと思う。 ②ヘルメットをかぶらない児童はほとんどいなくなった。ただ, 飛び出し等は相変わらずあるので注意していきたい。 ③廊下を走らない等の指導は, 集会等で道徳的な話をしてほしい。	①地域の「天名っ子パトロール隊」やPTA等と連携して子ども達の登下校の安全を確保していきたい。 ②交通安全教室を学校, 地域, PTAと合同で開催し, 自分たちの町の子ども達の安全安心を確保していきたい。また, 青少年課と連携をして様々な安全安心を守る授業を行いたい。 ③廊下を走らない取り組みを児童会活動, 集会等での道徳的な話を通して根付かせたい。	
地域ぐるみの教育	①米作りを通じて, 地域の方とふれあい, 地域の思いに触れる活動を推進する。【評価指標】児童アンケート6 ②授業公開をする。【評価指標】開催回数 ③情報発信をしていく【評価指標】学校だより・学年通信の発行回数・ホームページ更新回数 ④地域と共に子どもを育てる取り組みをする。【評価指標】開催回数	①地域のふるさと先生に教えてもらうのを楽しんでいる低学年は95%, 高学年は92%。 ②授業公開は, 年間4回開催。 ③学校だよりは月2回発行。学級通信は多いクラスで116号, 少ないクラスで45号発行。ホームページは7回更新。 ④天名マイふれあいフェアの開催。事前打ち合わせ, 反省会を含み5回, 地域の方と話を持つ。	①米づくりを通じて地域の人とのふれあいを深めている。 ②授業公開を年間4回しているが, PTAだけではなく地域の方の参加を促す必要がある。 ③学校便り, 学級通信等で地域へ情報発信しているが, ホームページを充実していく必要がある。 ④天名マイふれあいフェアを地域の方と熟議し, 何を教えていくのかを整理していく必要がある。	①6年生を送る会に参加し, 6年生の子ども達の声を聞くと「米づくり」が一番印象に残っていると思った。米づくりの大切さを通じて教えるのは意義があると思った。 ②授業参観や送る会等に積極的に参加していったらどうか。 ③通信等で学校の様子がわかるのでありがたい。 ④天名マイふれあいフェアでの活動内容を考える必要があるのではないかと。	①ふるさと先生, 地域の方から「米づくり」を通じて地域の思い等を学ばせたい。 ②年間4回の授業公開をしているが, PTAだけではなく地域の方にも来ていただけるような公開授業を考えていきたい。 ③学校通信, 学級通信を継続して配布していきたい。 ④天名マイふれあいフェアでの子ども達の活動を充実させていきたい。	